



「ふるさとを愛し、
生きていく力を育む萩っ子」の育成を目指します

埼玉県公立高等学校入試の今後と求められる力

校長 河村 康郎

12月になり、3年生にとって、本格的な入試シーズンがやってきました。11月の三者相談を経て、志望校を決定し、出願準備を行う時期となっています。私立高校を受験する人は、年明けに出願、1月下旬に入試というスケジュールです。

さて、今日は埼玉県の公立高等学校の入試について書きます。これからの入学試験で求められる力はどういうものなのかを考えていきます。

埼玉県教育委員会は、令和5年10月16日、埼玉県公立高等学校入学者選抜方法の改善について素案を公表しました。改善の主な内容は以下のようなものとなります。

◆自己評価資料提出、面接実施(すべての受検生に面接を実施)

- | | |
|----|----------------------------------|
| 現行 | 調査書に記載された特別活動(部活動)や資格試験等の実績を評価する |
| 新 | 自己評価資料に基づいた面接を実施、意欲を評価する |

◆調査書の様式変更(中学校が作成する調査書の記載事項は学習の記録を基本)

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 現行 | ○各教科の学習の記録(評定) ○特別活動の記録 ○出欠席の記録 等 |
| 新 | ○各教科の学習の記録(評定)の記録を基本とする |

※ 現小学6年生から実施。ただし、現中学1年生から移行期間とする。

ここで大きなポイントとなるのは、これまでの調査書の記載事項を整理するという点。現行の調査書では、各教科の学習の記録(評定)、特別活動の記録、出欠席の記録などを記載事項としていますが、新たな調査書では1学年から3学年までの各教科の学習の記録(評定)を基本とすることです。評定以外は、自ら自己評価資料を作成し、それを基に面接を行います。埼玉県教育局高校教育指導課長は「思考力・判断力・表現力が問われている今、生徒にも自分の言葉で頑張ってきたことを伝えてほしい」と話しています。

今求められている力とはどんなものなのでしょう。まずは自らの長所を見つけ、それを磨くことから始めてみましょう。そして、自らの考えを持ち、理由や根拠も含めて他者に伝える力が必要となります。そのためには教科の学習も必要になります。より良く生きていくためにこれらの力をつけていってほしいと思います。高萩中学校職員、全力でサポートしていきます。ご家庭・地域の方々の協力もお願いいたします。

☆保護者の皆様へ

インフルエンザの流行により合唱祭を予定通りには実施できませんでしたが、おかげさまで、無事に終えることができました。ご来校いただき、生徒の歌声を聴いていただき、ありがとうございました。寒い時期となりますが引き続き、感染対策にご協力ください。

